

第8回遊水地保全・再生及び人々の交流・教育・普及啓発検討合同部会
WG I 「希少動植物の保全」について【要旨】

○アンケート調査の結果を提示し、それらの活動の内容と追加情報について

- ・ N o . 1
小山市の活動。平成26年度から実施。市民ボランティアや関係企業、関係団体からの多くの参加をいただいている。
- ・ N o . 2
小山市の活動。今年度初めて実施。外来魚を駆除し、在来の水生生物を守ることが目的。地引網で外来魚を採取。
- ・ N o . 3
渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会の活動。平成26年3月から実施。住民協議会の会員と一般市民が参加している。植物・昆虫・野鳥それぞれで、一般的な調査方法を用いて調査を行っている。(植物：歩きながらの植生変化等観察 昆虫：ピンホールトラップ等 野鳥：ラインセンサス調査)
- ・ N o . 4
渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会の活動。平成28年12月から実施。年5回のうち1回は栃木市との共催。
- ・ N o . 5
栃木市の活動。主にノジトラノオの保全。ノジトラノオの保全活動は、全国で5か所のみ。知識のある特定の方のみでの活動。
- ・ N o . 6
N o . 4と同じ。
- ・ N o . 7
栃木市の活動。史跡ゾーンを中心に活動。当初は30名くらいでの活動であったが、現在は約2倍の参加者数になっている。
- ・ N o . 8
渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団の活動。谷中湖子供広場レンタサイクルセンター前に希少植物を移植しており、それらの植物の保全を行っている。
- ・ その他
わたらせ未来基金の活動として以下のものがある。
環境学習フィールド1において、年に1回、人為的土壌攪乱を実施。攪乱をすることで、攪乱依存種の植物の芽吹きを誘発する。また、攪乱後に凸凹を

残すことによって、そこを日本固有のニホンアカガエルの産卵場所になるようにしている。

環境学習フィールド1において、年に1回、刈ったヨシを導火線のように並べて、ヨシ焼きの火が入りにくいところへもそのヨシを伝わってしっかりと火が入るようにしている。

第1調節池において、年に1回、環境保護ということで、ヨシ焼きの火が入らないように周りのヨシ等を刈って、防火帯を作っている。歴史的な屋敷林や水塚等を守っている。前述とは逆に火を入れないことで環境を守っている。

○それぞれの活動やその他関連する問題点

- ・ 谷中湖周辺にセイタカアワダチソウが多く生息しており、今の時期、黄色い花をいたるところでみる。
- ・ 希少種を守るためには、これらの保全活動は必要であるが、人が入ることによって盗掘が起こる。
- ・ 盗掘防止の情報を周知し、さらには立入禁止区域等を設けることができると効果的である。
- ・ 国土交通省で掘削工事を行っているが、掘削をすると約50種類の植物が新たに芽を出すといわれている。それらの現状調査をし、その中から希少植物の選定。さらにそこを市民参加型の保全活動場所にするということも良いのではないか。